

A-78 カキ洗淨水中における E. coli の推移  
広島文教女大短大 ○豊後孝江

目的 昨年、中・四国支部総会においてカキ洗淨方法別効果の検討を人工汚染カキ(大腸菌 E. coli)を用いて実施し、洗淨水としては3%食塩水およびだいこんおろしを加えた水道水がそれぞれより効果的であることを指摘したが、引き続きこれの有効性を解明する手がかりをうるため各洗淨水中における E. coli の推移について検討したので報告する。

方法 カキより分離した E. coli のグイヨン培養液を各洗淨水ごとに一定量加え、それぞれ5℃・20℃の温度条件下での経時的推移(1, 2, 3, 4, 5, 6 および24時間)について検討を加えた。なお菌数測定はデソキミユレート寒天平板培養法によった。供試洗淨水は水道水, 3%食塩水, 10%だいこん汁水道水および生食水とした。またカキ液をこれらの洗淨水中に混入したときの E. coli の推移をもみるため、それぞれカキ液を10%加え同様供試洗淨水とした。

結果 カキ液を混入しない洗淨水中における E. coli の推移は、生食水および10%だいこん汁水道水では5℃・20℃共に菌数の経時変化はほとんどみられず、水道水では時間の経過と共に減少がみられ、特に20℃で顕著であった。3%食塩水は5℃では変化はみられず、20℃では著しい減少がみられた。

ついでカキ液を混入した洗淨水中における推移をみると、生食水、水道水および3%食塩水のいずれも時間の経過と共に菌数の上昇をみたが、10%だいこん汁水道水では6時間まではほとんど変化はみられなかった。(24時間での増殖は認められた。) すなわち洗淨水中における E. coli 推移は、カキ液混入の有無でかなり趣を異にすることが判明した。